

日本語学会 第150回大会報告

2015/06/24@語学研究所
Luncheon Linguistics
博士前期課程 岡本進

大会概要

- ・日程
2015年6月20日(土)・21日(日)
- ・ところ
大東文化大学板橋キャンパス
- ・次回大会
2015年11月28日(土)・29日(日)@名古屋大学

大会概要

- ・一日目
13:00～18:00 口頭発表 56件 (応募83件)
- ・二日目
10:00～12:00 シンポジウム
「日中言語対照研究の現状と未来」
12:10～13:10 ポスター発表 3件 (応募3件)
14:00～15:00 会長就任講演
「日本の方言研究と一般言語学」
15:15～17:00 150回記念フォーラム
「日本語学会の回顧と展望」

口頭発表報告

- ①「スワヒリ語動詞の反復形—機能と派生の条件—」
牧野友香 (大阪大学大学院言語文化研究科)
- ②「琉球与那国語の敬語体系」
山田真寛 (京都大学学際融合教育研究推進センター
アジア研究教育ユニット)

「スワヒリ語動詞の反復形 —機能と派生の条件—」

牧野友香

(大阪大学大学院言語文化研究科)

報告①「スワヒリ語動詞の反復形」

・先行研究の問題点

- ① 先行研究で挙げられている用例が、「殴る」「歌う」など動作動詞に偏っており、機能の説明も「動作の繰り返し、強化、継続を表す」のように感覚的な説明である。
- ② 生産性について、「非常に生産的である」と述べているだけで、派生の条件については記述がない。

報告①「スワヒリ語動詞の反復形」

・反復形とは？

動詞語根全体が繰り返されたものを「反復形」という。

・スワヒリ語における動詞の反復形の例

- (1) Sungura huyo a-li-ruka-ruka msituni
 ウサギ(9) その(1) 3sg-PST-飛ぶ-RVS 森(17)
 「そのウサギは森をぴよんぴよん飛び回った」

報告①「スワヒリ語動詞の反復形」

・反復形の機能

- | | | |
|-------------------|---|------|
| ①動作の繰り返し | } | 先行研究 |
| ②動作の継続 | | |
| ③強化 | | |
| ④動作の弱化 | | |
| ⑤ある状態の度合いの進行 | } | 新発見 |
| ⑥同時多発性 | | |
| ⑦習性 | | |
| ⑧ある状態化でなされる典型的な動作 | | |

報告①「スワヒリ語動詞の反復形」

⑤度合いの進行

- (2) Kamba hizi zi-na-legea-legea
 ロープ(10) この(10) 10SM-PRS-緩む-RVS
 「このロープはどんどん緩む」

⑥同時多発性

- (3) Matawi ya-li-kwanyuka-kwanyuka kwa upeo
 枝(6) 6SM-PST-折れる-RVS ~で 風(11)
 「風で枝が何本も折れた」

報告①「スワヒリ語動詞の反復形」

・反復形の派生の条件

<終着点がなく非限界的な動詞であること>が条件

- (6) a. -cheka-cheka 「笑い続ける、いつも笑う」
 b. -legea-legea 「どんどん緩む」
 c. -imba-imba 「頻繁に歌う、長い時間歌い続ける」

- (7) *A-li-imba-imba wimbo momoja
 3sgSM-PST-歌う-RVS 歌(11) 一つの(11)

→「一曲歌い終わる」という終着点があるため(7)は×

報告①「スワヒリ語動詞の反復形」

⑦習性

- (4) Mtu yule a-na-cheka-cheka
 人(1) あの(1) 3sgSM-PST-笑う-RVS
 「あの人はいつも笑っている」

⑧典型的な動作

- (5) A-li-lewa-lewa
 3sgSM-PST-酔う-RVS
 「彼はふらついた / よろめいた」

報告①「スワヒリ語動詞の反復形」

・反復形の派生の条件

しかし...

- (8) kwanyuka「折れる」、mwaga「こぼす」→反復形可
 (9) chanua「咲く」、tengeneza「仕上げる」→反復形不可

(8) も (9) も同程度に終着点が設定されそうだが??

報告①「スワヒリ語動詞の反復形」

・反復形の派生の条件

(8) では「少し折れた/にぼした」のような表現が可能
→<イベントが発生したすぐの時点でその状態や動作が成立している>場合、**反復形が可能**。

(9) では「*少し咲いた/仕上がった」のような表現不可
→<終着点に達しなければイベントが成立しない>場合、**反復形は派生できない**。

「琉球与那国語の敬語体系」

山田真寛

(京都大学学際融合教育研究推進センターアジア研究教育ユニット)

報告①「スワヒリ語動詞の反復形」

<質疑応答>

・「少し咲いた」と言えそうだが？
→スワヒリ語では不可。

・形容詞・名詞の重複はあるか？
→今回は対象外。

・⑧典型的なタイプはほかにあるか？
→これだけ→強化で説明できないか？

報告②「琉球与那国語の敬語体系」

・敬語1: 補助動詞 warun

※語彙的には「行く、来る、いる」の敬語表現

(10) a. dum-u-n	b. dum-i	<u>war</u> -u-n
read-PRS-IND	read-MED	<u>HON1</u> -PRS-IND
「読む」		「お読みになる」

<出現条件>

主格項が発話者より年長者のとき、敬語1は出現する。

報告②「琉球与那国語の敬語体系」

・敬語2: 補助動詞 waran

※ 語彙的には「行かせる」の敬語表現

(11) a. c-u-n

wear-PRS-IND 「着る」

b. c-am-i wara-ø-n

wear-CAUS-MED HON2-PRS-IN 「着せる」

<出現条件>

与格項が主格項 (NOT発話者) より年長者のとき、敬語2は出現する。

報告②「琉球与那国語の敬語体系」

・敬語2は現代日本語共通語の謙譲語に見えるが...

(14) (啓太が私に着物を) 私>啓太

c-am-i wara-ta-n

wear-CAUS-MED HON2-PST-IND

「着せた」

→たとえ与格項が発話者であっても主格項より年長者であれば敬語2が用いられる。

報告②「琉球与那国語の敬語体系」

(12)は敬語1、(13)は敬語2の例。

(12) (おばあさんが私に着物を) 主格>発話者

c-am-i wa-ta-n

wear-CAUS-MED HON1-PST-IND

「お着せになった」

(13) (私がおばあさんに着物を) 与格>主格

c-am-i wara-ta-n

wear-CAUS-MED HON2-PST-IND

「お着せ申し上げた」

報告②「琉球与那国語の敬語体系」

・与格項>主格項>発話者の場合、すなわち敬語1も敬語2も適用できそうな場合は...

(15) (好美さんがおばあさんに着物を) おばあさん>好美>発話者

c-am-i wara-ta-n / *wa-ta-n

wear-CAUS-MED HON2-PST-IND / HON1-PST-IND

「着せた」

→敬語1は使われず、敬語2のみ用いられる。敬語1と敬語2は共起不可。

報告②「琉球与那国語の敬語体系」

・主格項＞与格項＞発話者の場合は...

(16) (おばさんが好美さんに着物を) **おばさん＞好美＞発話者**
 c-ami-ta-n / *c-am-i wa-ta-n
 wear-CAUS-PST / wear-CAUS-MED HON1-PST-IND
 「着せた」

→敬語表現が現れない文が適切である。すなわち、与格項を含む文では、**発話者と主格項の年齢差が無視される**ということになる。

報告②「琉球与那国語の敬語体系」

<質疑応答>

・対格と主格、発話者の関係は？

→関係なし、与格のみ考慮される。

・与格であれば全部か、ある種の与格のみか？奪格的なものは？

→causee も与格だが調べていない。

報告②「琉球与那国語の敬語体系」

(A) 敬語1適切性条件: 年齢について**主格＞発話者**
 主格項が発話者より年長者のとき、またその時に限り、その文の主動詞は敬語1表現である。

(B) 敬語2適切性条件: 年齢について**与格＞主格**
 与格項が主格項より年長者のとき、またそのときに限り、その文の主動詞は敬語2表現である。

(C) 与格項を含む文では、(B) のみが尊重され、(A) は無視される。

ご清聴ありがとうございました。